



町政執行方針（要旨）



妹背牛町長  
滝本 昇司

はじめに

昨年 8 月、町民の皆様のご支援により町政を担うこととなり、就任から半年、議員や町民の皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

昨年は米価上昇やふるさと納税の増加により一定の収入を確保できた一方、物価高騰による経常経費の増加が財政に影響を与えています。本年は第 9 次総合振興計画の 7 年目となる重要な年であり、改定した第 3 期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」とあわ

せ、「小さなまちから 広がる つながり 暮らしやすいまち もせうし」の実現に取り組みます。

令和 8 年度予算では物価高対策として 1 人 2 万円の商品券配付やペル温泉入浴優待券の継続を予定しています。

また、庁舎のエアコン整備やエレベーター改修、庁舎内避難所整備を進めるほか、延期した小中学校統合校舎の建設も令和 20 年度開校に向け準備を進めます。

これらの施策について、第 9 次総合振興計画に基づき説明いたします。

～地域産業を未来へつなぐまちづくり～

農業振興

良質・良食味米の安定生産

令和 8 年産主食用米の生産目安は、前年の政府備蓄米売却による追加設定の影響を受けまいよう調整されました。

北海道では、需給見通しや販売計画などを踏まえ、前年並みの水準で設定され、本町は昨年より 7.7 ㍎増の 2,105.9 ㍎となっています。

良質米の安定生産に向け、米穀乾燥調製貯蔵施設の品質検査機器更新を実施します。

また、肥料価格高騰への対策として土壌診断助成を継続し、適正施肥による品質向上とコスト低減を図ります。

農作業の省力・省人化の推進

農業従事者の高齢化や後継者不足により農家戸数が減少し、1 戸当たりの経営面積が拡大する中、労働力不足の解消が課題となっています。

町では妹背牛町 G N S S 研究会と連携し、省力・省人化に向けた技術研究を進めています。人工衛星画像と AI 解析を活用したりモートセンシングの研究・検証を行います。肥料コスト削減や収量向上につなげていきます。

あわせて水稻直播研究会の活動支援や圃場整備による大区画化を進め、生産性向上を図ります。

活力ある農村づくり及び担い手の育成・確保

農協青年部・女性部はイベント開催や各種事業への参画を通じ、まちづくりに貢献しており、今後も魅力ある農業と活力ある農村づくりに向け関係機関とともに支援します。

担い手確保では、北空知農業後継者対策育成支援協議会の研修や北海道拓殖短期大学の冬期集中講座への参加を促進するとともに、新規就農フェアへ継続参加し本町農業の PR を進めます。

また、新規就農経営安定助成により就農初期の経営を支援し、担い手確保を図ります。さらに農産加工センターでは事務室へのエアコン設置や老朽化した調理機械の更新を計画的に進めます。

有害鳥獣対策

エゾシカ、カラス、アライグマなどによる農作物被害防止のため、アライグマ用ハコ罠やモンスターウルフ、防獣テープの設置を行い、関係機関と連携し駆除体制を強化します。

近年目撃が増えるヒグマ対策として注意看板の設置や捕獲用ハコ罠、自動撮影カメラを導入し体制を整備します。

また猟銃免許取得・更新費用の助成を継続し、狩猟者の確保と育成を進めます。

## 移住定住の促進



人口減少や少子高齢化への対応として、持続可能なまちづくりに向け移住・定住の促進を進めます。

住宅取得や民間賃貸住宅入居への支援、引越し費用助成、高校生通学費支援などにより、移住や子育て世代の負担軽減を図ります。

また、住環境整備と情報発信を強化し、移住相談会などを通じて本町の魅力を発信します。

さらに、外国人地域おこし協力隊員による交流や学校での活動、外国人技能実習生への生活支援などを通じ、多文化共生のまちづくりを進め、「住み続けたいまち」「選ばれるまち」を目指します。



## 空き家対策



人口減少や高齢化に伴い、空き家の増加が課題となっておりことから、防災・防犯や景観への影響を踏まえ計画的な対策を進めます。

実態把握を行い、活用が困難な空き家は住宅撤去費助成事業を継続して除却を促進するとともに、固定資産税の納税通知書への案内同封などにより制度周知を図ります。

また、活用可能な空き家は地域資源として捉え、移住・定住促進につながる活用を進めます。



## 商工業の振興



商工業は地域経済や雇用、町民生活を支える重要な基盤ですが、人口減少や消費行動の変化、原材料費・エネルギー価格の高騰により厳しい状況が続いています。

本町では商工会など関係機関と連携し、事業者の経営基盤強化に向けた支援を継続します。

小売店舗等設備支援事業や起業支援事業、商店街機能維持事業などへの支援を行い、商工業の持続的発展を図ります。

また、地域おこし協力隊による店舗やキッチンカー営業など起業に向けた取り組みを進め、新たな事業者の創出と地域活性化につなげます。



## 観光の振興



観光振興では、情報発信の強化を基本に交流人口の拡大を図ります。遊水公園うらら、カーリングホール、妹背牛温泉ペルを核に、テレビやデジタル媒体を活用して町の魅力や飲食店などを分かりやすく発信し、再訪につながる観光施策を進めます。

ペルでは、利用者ニーズを踏まえた魅力向上を図り、地域おこし協力隊や職員による熱波師の活動など、サウナを生かした特色ある取り組みを展開します。また、町民向け温泉入館優待券の配付を継続します。

さらに、応援大使の山下彩耶さんや女子カーリングチーム「フォルティウス」と連携し、町の認知度向上やふるさと納税、移住施策と結び付けながら観光客や関係人口の増加を目指します。

## ～地域が支えるやさしいまちづくり～

**国** 国民健康保険事業について

国民健康保険は、国民皆保険制度の中核として地域医療と住民の健康を支えています。少子高齢化の進行や医療費増加、低所得者の加入割合の高さなどにより財政は厳しい状況です。

平成30年度の都道府県単位化により保険料の急激な変動は緩和されましたが、統一保険料に向けた賦課割合の見直しが課題となっています。

令和4年度の見直し方針に基づき、令和12年度に向け段階的に取り組みを進め、今後も安定的な制度運営に努めます。

**介** 護保険事業について

介護保険制度は、介護が必要になっても地域で安心して暮らせるよう社会全体で支える仕組みです。

高齢化の進行や高齢者世帯の増加、地域関係の希薄化など環境が変化する中、介護予防や生活支援、地域包括ケア体制の充実、認知症施策などを進めます。

また、本年度は高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の最終年であることから、制度改正を踏まえ次期計画を策定し、介護保険の安定運営に努めます。

社会  
保障  
の  
充  
実**高** 齢者福祉の充実

少子高齢化の進行により、ひとり暮らしや高齢者夫婦世帯、認知症高齢者の増加が懸念されています。

本町では「わかち愛もせうしひろば」を活用した介護予防や生活支援を充実させるほか、「重層的支援体制整備事業」により複雑化する相談に対応できる包括的な支援体制の強化を進めます。

また、「北空知成年後見相談センター」と連携し、成年後見制度の相談支援を行います。さらに、外出支援や配食サービス、水道料助成、福祉灯油助成、温泉入館料助成、交通費助成の拡充など在宅福祉の充実を図ります。

**子** 育て支援の充実

少子化や核家族化が進む中、子育て世代を地域全体で支える体制整備を進めます。

昨年開設した「こども家庭センター」を中心に、妊娠から子育て期まで切れ目のない支援を行います。

認定こども園では「こども誰でも通園制度」に向け体制を整えます。また、産後ケア事業の拡充など妊産婦支援を強化します。

さらに、交流施設「from ☆ moko」を拠点に地域での子育て支援を進めるとともに、不登校児童生徒への居場所づくり支援を継続します。

**健** 康づくり・地域医療の推進

「第2期健康増進計画」と「第3期国民健康保険データヘルス計画」に基づき、健康教室や広報を通じて生活習慣病予防と健康づくりを推進します。

がん対策では、各種検診に加え、中学生を対象としたピロリ菌検査を継続し、二次検査など事業拡大を図ります。

また、「自殺対策行動計画」に基づき、ゲートキーパー養成など、こころの健康支援を進めます。さらに、妹背牛診療所と連携し、地域医療の維持向上と安定した運営に努めます。

**障** がい者福祉の充実・地域福祉の推進

福祉ニーズが多様化する中、社会福祉協議会やNPO、民生児童委員、町内会など関係機関と連携し、誰もが自分らしく暮らせる共生型のまちづくりを進めます。

令和5年度に策定した地域福祉計画や社会福祉協議会の地域福祉実践計画との整合を図り、地域福祉を推進します。

また「アグリーン妹背牛」「ジェミニ」「夢の杜」と連携し、障がいへの理解促進と福祉サービスの充実、社会参加の促進を図り、安心して暮らせる地域づくりに努めます。

## ～快適な生活が送れるまちづくり～

## 道路環境、交通環境の整備

町道の整備では、計画的な機能回復と適正な維持管理を進めます。本年度は舗装修繕計画に基づき、町道東1丁目線の舗装修繕を実施し、橋梁では長寿命化修繕計画により大西橋と佐々木橋の修繕を行います。

冬期間の除排雪対策では、社会資本整備総合交付金を活用し、除雪費の財源確保と機械の更新を進め、令和8年度は除雪車両1台を更新します。今後も生活道路の安全確保に努めます。

## 住環境の整備

町営住宅は公営住宅160戸、特定公共賃貸住宅12戸、地域優良賃貸住宅2戸、勤労者住宅4戸の計178戸を管理しています。

令和8年度は社会資本整備総合交付金を活用し、北斗団地B棟の長寿命化改修工事を実施します。今後も「公営住宅等長寿命化計画」に基づき、予防保全を重視した維持管理を進め、住宅の長期利用と使用料の収納率向上に努めます。

## 上下水道の整備

簡易水道事業は、給水人口減少による料金収入の減少や人件費・資材費高騰など厳しい状況にありますが、経営の効率化を図りながら施設の適正な維持管理を行い、安全で安心な水の安定供給に努めます。

農業集落排水事業では、中長期的な更新計画に基づき、更新時期の検討を進めるとともに、処理施設や個別排水施設の適正管理により生活環境の向上と健全な事業運営を図ります。

## 循環型社会の創造

資源循環型社会の実現に向け、ごみの分別・資源化を推進しています。生ごみはバイオガス化施設で処理し、資源ごみはリサイクル、燃えるごみは広域連合で焼却し発電に活用しています。

今後も適正な分別・処理を進め生活環境の保全に努めます。また、イベント回収や不法投棄防止を進めるほか、ハチの巣駆除助成等を継続します。さらに、ゼロカーボンシティ宣言のもと、太陽光発電や蓄電池導入による再生可能エネルギーの活用を進めます。

## ～安全・安心で信頼できるまちづくり～

## 消防、防災・治水体制の充実

## 消防・救急体制

消防・救急行政では、近年頻発する自然災害や猛暑、高齢化に伴う救急要請の増加に対応するため、迅速で的確な体制強化を進めています。

119番通報の広域化により北空知1市4町での対応が可能となり、指令システムや位置情報通知システムに加え、車両動態管理システムの導入により対応力の向上を図ります。

また、防火啓発を進め無火災を目指すとともに、救急体制の充実により町民の生命と安全の確保に努めます。

## 防災・治水体制

近年、地震や大雨など自然災害の激甚化が進む中、本町でも災害に備えた体制強化が重要となっています。

これまで非常用発電機や防災資機材の備蓄、防災行政無線システムの整備などを進めてきました。

今後も防災訓練の実施や戸別受信機・スマートフォンアプリの普及により情報伝達体制を強化するとともに、「地域防災計画」やハザードマップの見直しを行い、防災体制の充実に努めます。

## 防犯、交通安全の充実

北海道では交通事故死者数が増加し、深川警察署管内でも死亡事故が発生していますが、本町では交通事故による負傷者がなく、交通事故死ゼロも継続しており、本年6月には「3,000日」達成が見込まれています。

今後も「飲酒運転根絶」や「ながら運転防止」の啓発を進め、警察や交通安全協会と連携し、町民総ぐるみの運動を推進します。

また、SNSを利用した投資詐欺やロマンス詐欺などの被害防止に向け、防犯関係機関や地域と連携し、安全で安心な地域づくりに努めます。